

かん たか とし
菅 隆俊



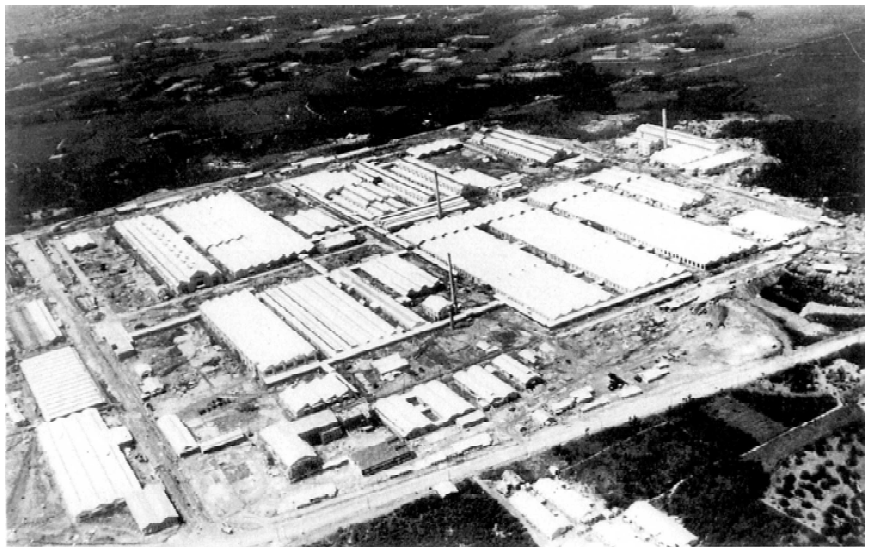
菅 隆俊 (1886 ~ 1954)
 出典：『トヨタ自動車 20 年史』

世界のトヨタへ、基盤技術の確立 - 自動車製造の専用工作機械の開発 -

■中京デトロイト化計画・アツタ号のエンジン鑄造に關与

菅隆俊は東京工業高校(現東京工業大学)出身。日本の自動車工業揺籃期から国産自動車工業の具体化、産業分野として「自動車生産」の基礎を確立した機械、自動車製造エンジニア。非常に優れた技術者であり、経営者でもあった。

企業連合による自動車生産を目論んだ中京デトロイト化に、技術者として参加した。豊田自動織機製作所において自動車大量生産のシステム構築し、トヨタ自動車工業初のシステム化した自動車専用工場である拳母工場の設計し、かつ、機械の考案や設計には多くの功績を残し、幾多の特許を取っている。



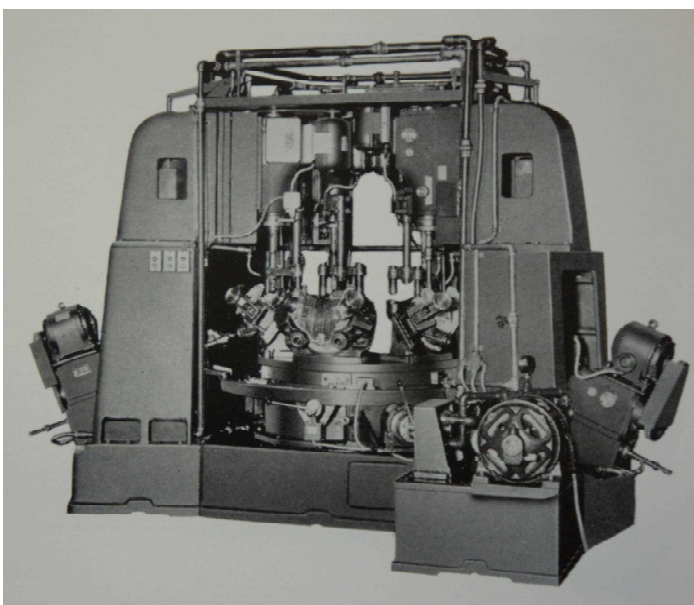
菅隆俊が設計した拳母工場

出典：『トヨタ自動車 30 年史』

■豊田自動織機で自動車大量生産システムの構築

1930年代、豊田喜一郎は、技術家として良心的な国産自動車製造の準備に邁進していた。喜一郎は、菅隆俊を最高の技術者として、豊田自動織機製作所へ招いた。菅は、喜一郎の構想に共感し、

生産の具体化のために奔走した。入社後、直ちに、試作工場の設計と工作機械の買付けを命じられた。豊田利三郎は、喜一郎の志を尊重しつつ、自動車開発に専心できるように、会社の実務を、菅に任じ経営の実際に当らせていた。工作機械買付のために渡米する前に、自動車を大量生産するために必要な工場の工程表を自身の経験と文献から予想で作成した。米国内では、買付のかたわら、自動車工業の実態調査により、大量生産システムの工程表を作り上げた。



航空機用エンジン、シンダーヘッド用多方向インデックス
 テーブル形専用機

出典：『豊田工機 20 年史』

拳母工場は、各工程の責任者の要望と工程表の差異を埋めながら設計した。喜一郎は、工業生産において、誰でも容易に扱うことができる単能機(専用機)の導入で、生産効率を向上させるために、自社での工作機械製造を目論んでいた。この必然から生まれた工作機械製造は、後の豊田工機の設定につながり、菅は、豊田工機の設定を担当した戦時中、専用機の開発を行うことで、工程差による誤差を減少させるように努め、少人数で複数の機械を操作させ、自動化を進めた。戦時中多くの機械関係雑誌に単位構成主義(ユニットシステム)工作機械の導入を訴えていた。わが国に於ける専用工作機械開発の先駆者であった。そして豊田工機の経営者として同社の基礎を固めた。

(杉山清一郎)